

平成27年3月期 第2四半期決算説明資料

平成26年11月6日



エムケー精工株式会社

証券コード: 5906





平成27年3月期 第2四半期の決算概要

平成27年3月期 第2四半期の総括

業績の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動により個人消費が弱含みながら、企業収益や雇用情勢の改善など景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

当社グループ関連業界におきましては、オート機器の分野では設備投資は引き続き底堅い動きを見せているものの、情報機器及び生活機器の分野では価格競争の激化により、厳しい状況が続いております。

こうした状況にあって当社グループは、収益モデルの再構築を目指して、人材育成と営業部門強化に向けたプロジェクトに取り組むと共に、更なる生産性の強化とコスト削減を目指して、設備・人員の再配置、在庫削減及びVA(価値分析)を推し進めてまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は92億9千3百万円(前年同期比3.3%増)、営業利益は5億1千2百万円(前年同期比0.1%増)、経常利益は5億1千万円(前年同期比4.9%増)、四半期純利益は2億6千4百万円(前年同期比11.0%増)となりました。



平成27年3月期 第2四半期の業績

<連結業績>

単位:百万円

	26年9月期	25年9月期	対前期比
売上高	9,293	8,993	103.3%
営業利益	512	511	100.1%
経常利益	510	486	104.9%
四半期純利益	264	238	111.0%

平成27年3月期 第2四半期連結貸借対照表

単位:千円

	26年9月期	25年9月期	増減額
(資産の部)			
流動資産	11,746,082	11,294,939	451,142
現金及び預金	1,706,555	1,417,648	288,907
受取手形及び売掛金	4,523,056	4,650,379	△127,322
たな卸資産	5,212,189	4,996,009	216,179
その他の流動資産	304,281	230,903	73,378
固定資産	9,334,190	9,504,451	△170,260
有形固定資産	6,123,722	6,241,725	△118,002
無形固定資産	1,402,826	1,530,908	△128,081
投資その他の資産	1,807,641	1,731,818	75,822
繰延資産	2,487	483	2,004
資産合計	21,082,760	20,799,874	282,886

平成27年3月期 第2四半期連結貸借対照表

単位:千円

	26年9月期	25年9月期	増減額
(負債の部)			
流動負債	9,486,515	9,349,281	137,233
支払手形及び買掛金	1,381,689	1,120,806	260,883
短期借入金	2,440,000	3,140,000	△700,000
1年内返済予定の長期借入金	1,877,490	1,620,270	257,220
未払金	2,897,611	2,634,155	263,456
その他の流動負債	889,724	834,050	55,674
固定負債	2,716,001	3,118,405	△402,404
社債	100,000	—	100,000
長期借入金	2,102,188	2,595,886	△493,698
その他の固定負債	513,813	522,519	△8,706
負債合計	12,202,516	12,467,687	△265,170



平成27年3月期 第2四半期連結貸借対照表

単位:千円

	26年9月期	25年9月期	増減額
(純資産の部)			
株主資本	8,773,700	8,356,765	416,935
資本金	3,373,552	3,373,552	-
資本剰余金	2,951,143	2,951,143	-
利益剰余金	2,959,406	2,542,456	416,950
自己株式	△510,402	△510,386	△15
その他の包括利益累計額	106,543	△24,578	131,121
その他有価証券評価差額金	185,752	96,776	88,976
繰延ヘッジ損益	12,454	3,489	8,964
為替換算調整勘定	△91,664	△124,844	33,180
純資産合計	8,880,243	8,332,186	548,057
負債純資産合計	21,082,760	20,799,874	282,886



平成27年3月期 第2四半期連結損益計算書

単位：千円

	26年9月期	25年9月期	増減額
売上高	9,293,662	8,993,008	300,654
売上原価	6,157,057	5,980,742	176,315
売上総利益	3,136,604	3,012,265	124,338
販売費及び一般管理費	2,624,374	2,500,602	123,772
営業利益	512,229	511,663	566
営業外収益	53,704	54,371	△666
営業外費用	55,739	79,789	△24,050
経常利益	510,195	486,244	23,950
特別利益	8,167	208	7,958
特別損失	2,696	1,976	719
税金等調整前四半期純利益	515,666	484,476	31,189
法人税等及び法人税等調整額	250,824	245,831	4,993
四半期純利益	264,841	238,645	26,196



平成27年3月期 第2四半期連結キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

	26年9月期	25年9月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△254,472	△356,281	101,808
投資活動によるキャッシュ・フロー	△141,438	△112,393	△29,045
財務活動によるキャッシュ・フロー	406,103	332,823	73,279
現金及び現金同等物に係る換算差額	△9,892	13,495	△23,388
現金及び現金同等物の増加額 (△減少額)	298	△122,355	122,653
現金及び現金同等物の期首残高	647,956	481,704	166,252
現金及び現金同等物の期末残高	648,255	359,348	288,906



平成27年3月期 第2四半期連結株主資本等変動計算書

＜平成26年3月21日から平成26年9月20日まで＞

単位：千円

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成26年3月21日残高	3,373,552	2,951,143	2,810,575	△510,386	8,624,884
当連結会計年度変動額					
剰余金の配当			△116,010		△116,010
四半期純利益			264,841		264,841
自己株式の取得				△15	△15
株主資本以外の項目の当 連結会計年度変動額(純額)					
当連結会計年度変動額合計	-	-	148,831	△15	148,815
平成26年9月20日残高	3,373,552	2,951,143	2,959,406	△510,402	8,773,700



平成27年3月期 第2四半期連結株主資本等変動計算書

単位:千円

	その他の包括利益累計額				純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	その他の 包括利益 累計額 合計	
平成26年3月21日残高	78,408	3,036	△38,510	42,934	8,667,819
当連結会計年度変動額					
剰余金の配当					△116,010
四半期純利益					264,841
自己株式の取得					△15
株主資本以外の項目の当 連結会計年度変動額(純額)	107,344	9,417	△53,153	63,609	63,609
当連結会計年度変動額合計	107,344	9,417	△53,153	63,609	212,424
平成26年9月20日残高	185,752	12,454	△91,664	106,543	8,880,243

セグメント別分析

■ オート機器事業

主要製品の門型洗車機は、SS業界の大手顧客やカーディーラー及び整備工場におきまして、買い替え需要が継続し販売台数を伸ばしました。また、オイル関連製品では、エアコンプレッシャーを中心に好調に推移したほか、政府の補助金制度もありローリーの売上が伸びました。この結果、売上高は前年同期比8.1%増の61億9百万円となりました。



門型洗車機「VIRTH ヴァース」

■ 情報機器事業

官需関連の道路情報板は、前年度受注分を当第2四半期までに納入できたことにより、前年同期を上回りました。しかし、一般店舗向け小型表示機及びアミューズメント業界向けフルカラー表示機は、新製品の市場導入により積極的な拡販に努めたものの、海外製品との厳しい価格競争や顧客の設備投資抑制の影響を受け苦戦しました。この結果、売上高は前年同期比11.0%減の9億7千7百万円となりました。



一般店舗向け小型表示機

セグメント別分析

生活機器事業

消費税増税前の駆け込み需要の反動が回復せず、消費マインドの冷え込みから調理家電を含めた一般家庭向け商材及び農家向け商材共に厳しい状況が続きました。また、保冷米びつは、OEM供給や販売促進企画が功を奏し堅調に伸長したものの、主力の農産物低温貯蔵庫は伸び悩み、売上高は前年同期比2.9%減の16億8百万円となりました。



農産物低温貯蔵庫

住設機器事業

子会社の株式会社ニューストが行う事業で、主として木・アルミ複合断熱建具、反射板式消音装置等の製造・販売を行っております。主要取引先である建設業界は、資材価格の高騰や職人不足により公共工事の入札不調・不落が続くなど厳しい状況が続いておりますが、前年度に積み上がった受注残が当上期の売上に寄与し、売上高は前年同期比2.4%増の5億1千万円となりました。



木・アルミ複合断熱建具
「アルタスウッドスクリーン」の施工例

セグメント別分析

■ その他の事業

その他の事業は、長野市内で展開しております「長野リンデンプラザホテル」の運営事業及び保険代理業、不動産管理・賃貸業であります。ホテル業は、長野市内での競合が激化し厳しい状況が続く中、ビジネス・観光共に需要は回復基調で推移し、売上高は前年同期比1.0%増の8千6百万円となりました。



長野リンデンプラザホテル

平成27年3月期 業績・配当予想

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後様々な要因により大きく異なる可能性があります。

平成27年3月期の業績予想

<連結業績>

単位：百万円

	27年3月期(予想)	26年3月期(実績)	対前期比
売上高	19,000	19,449	97.7%
営業利益	820	934	87.8%
経常利益	730	871	83.8%
当期純利益	430	506	84.9%

平成27年3月期の配当予想

当社グループは、株主各位への利益還元を重要な政策と位置づけ、今後の事業展開を念頭に財務体質の強化のための内部留保とのバランスを考慮した利益配分を基本方針としております。

平成27年3月期における1株当たりの年間配当予想は以下のとおりです。

<1株当たり年間配当金>

	1株当たり期末配当金
平成27年3月期(予想)	8円00銭
平成26年3月期(実績)	8円00銭

參考資料

当社の経営方針

■ 今後の経営方針

当社グループは、企業理念「求・消・営」のもと、お客様（消費者）をすべての中心に据え、お客様に求められる製品を販売及び営業することに努めてまいりました。また、開発から製造・販売までの一貫体制による「自社考案・自社販売」を基本方針として、研究開発型企業を志向しております。

なお、当社グループを取り巻く環境は益々変化しており、様々な分野において顧客ニーズやビジネスモデルが多様化しております。こうした変化や多様化に敏感かつ柔軟に適応すべく、モノづくりとサービス提供との高度な融合にチャレンジし続けてまいります。

中長期的な経営戦略

■ 中長期的な経営戦略

今後の経済見通しは、引き続き国内景気の回復が期待されるものの、国内の消費税増税の影響や、海外では新興国や欧米諸国の予断を許さぬ経済動向など、内外に数々の景気下振れリスクが潜んでおり、今後不透明な状況が続くものと予想されます。

当社グループは、こうした経済情勢に過度に左右されることのない、本質的に健康な企業へと体質改善を図るため、以下の課題に取り組んでまいります。

①収益モデルの再構築

現状に安住することなく、当社グループの収益計画の達成に向け、事業戦略、商品戦略、人的リソースの最適化など、あらゆる策を動員して、行動する企業集団を再構築します。

②筋肉質な人的リソースの再構築

収益モデルを確立するため、グループ全体での人員配置の最適化、人事評価システムの再構築及び人材育成の強化を図ります。

③更なる生産性の向上

投資効果、事業継続性及び情報流の観点から、当社グループの生産性の再評価を行い、設備、レイアウト、ロケーション等の最適化を図ります。

中長期的な経営戦略

④高品質なモノ+サービスの追求

商品の品質はもちろん、それに付帯するサービスの品質を高めるため、営業部門及びメンテナンス部門の業務を、接客のあり方から見直し改善を図ります。

⑤コスト削減、財務基盤強化

在庫削減、合理化及びVA(価値分析)を徹底すると共に、為替変動や金利上昇などの外部環境変化や各事業の進捗に連係した財務対策により、持続的成長に資する財務基盤を構築いたします。

研究開発活動

4月の消費税引き上げに伴う駆け込み需要への反動は限定的ではあったものの、依然として個人消費の低迷から抜け出せない状況が続いています。また、円安によるエネルギー及び原材料費の変動と、市場での厳しい価格競争が続いています。このような社会状況の中で、市場の変化、技術の変化を感度良く取り入れ、環境問題に配慮した研究開発の実践が求められています。当期も引き続き「フュージョン・テクノロジーで未来へ」を合い言葉に、「メカトロニクス技術」と「情報通信・処理技術」をコアテクノロジーとした高付加価値商品の研究開発を基本方針として、研究開発活動を次のとおり進めてまいりました。

■ オート機器事業

門型洗車機では、整備工場・カーディーラー向け車形センサ搭載型普及機のモデルチェンジを行い、安全性及び洗浄性能の大幅な向上と共に、節水、節電、使用ケミカル削減等の環境性能についても見直しを図りました。また、昨年発売し好評をいただいているガラス系新コート剤の改良を行い、更なる性能向上に加え、工程短縮による処理台数増を可能としました。さらに、市場からご要望があった新コート剤搭載可能機種種のラインアップを充実させると共に、簡便なコート剤手掛けシステムも開発しました。

その他整備機器では、電気自動車やハイブリッド車に対応したエアコンガスクリーニング充填機シリーズにSS向けモデルを追加する開発を行いました。また、SSにも設置可能なセルフ式大型トラック用スプレー洗車機及び洗車場オーナーとユーザーの使いやすさを追求したコイン洗車場向けスプレー洗車機のモデルチェンジを行いました。

研究開発活動

■ 情報機器事業

公官需向けでは、交通情報提供機器及び関連技術の開発を継続し、新興国に向けた道路情報板の開発を行いました。

民需向けでは、前期から引き続いて店舗向け表示機の開発を行い、製品ラインアップの充実を図っています。さらには、コストパフォーマンスに優れた高精細表示システムと、曲面設置が可能な軽量可とう型表示モジュールの開発を行いました。工事関連、道路管理向け表示機では、表示機の周辺機器として安全を重視した表示機昇降装置と車載式表示機の開発を行いました。さらに、LED表示機以外の新規商材として、各種アプリケーションに適用する非常用電源装置と周辺機器の開発を進めています。

■ 生活機器事業

農家向け商材では、白米及び玄米を低温保存できる保冷米びつのモデルチェンジを行いました。関連商品として、保冷米びつの上部空間を収納スペースとして有効利用できる上部ラックを開発しました。

電子レンジ置台については、最近の電子レンジが大型でタテ開き扉のタイプが増えてきたことへの対応と女性や高齢者の使い易さを狙い、電子レンジを置く位置を低く抑えた新タイプを開発しました。

新たなカテゴリーとしてペット関連商材の開発を進めていましたが、グルーミングテーブル、ブリッジラック、ラックハンガーの開発が完了しました。

研究開発活動

■ 住設機器事業

昨年来進めてきた大型断熱引違窓(ワイドネスウィンドウ)の下枠の開発が完了しました。これにより水密性能は想定通りに保持され、作動範囲も片方に3~4枚引いて最大約10mの開口が可能となりました。

さらに、学校向けの木アルミ複合引違窓(スクールシーベヘンスター)のモデルチェンジの開発に着手しました。この商品は学校以外でも納入実績が最も多く、コストダウンを行うと共にネーミングを変えて、医療福祉施設や幼保施設でより使いやすい商品とするための開発を進めております。

新製品情報

■ オート機器

【電気温水式高圧洗車機

「スターフレッシュ SF-710E」】

コイン洗車場・セルフSS向けに開発された、セルフ式のスプレー洗車機。

外板は防錆性に優れた亜鉛処理鋼板と特殊塗装により保護性と美観を一段と高め、内部配管は高耐食性のステンレス鋼を採用しました。また、集客力と収益力を追求した多彩な機能を搭載し、泡洗剤と撥水コートを標準装備。

だれもが満足できる洗いやすさと、迷わず操作できる使いやすさで、洗車の楽しさを広げます。



新製品情報

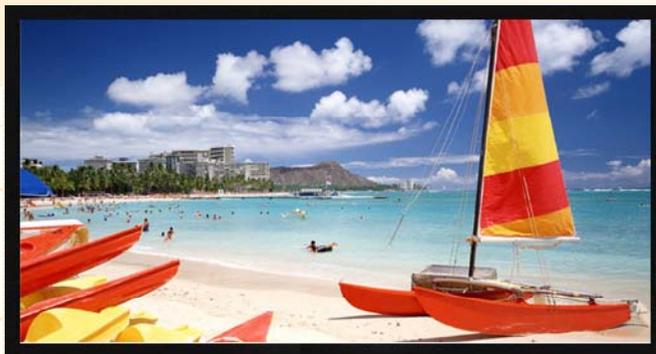
■ 情報機器

【フルカラー小型表示機「FQ1684／FQ1682」】

ストアサイン・フルカラー・クオリエシリーズに一般店舗向け小型フルカラー表示機「FQ1684／FQ1682」をラインアップに加えました。

部材の海外調達比率を高め大幅なコストダウンを実現しつつ、小型カラー表示機の実用分野では、業界に先駆けてドットピッチ10mmのLEDモジュールを採用し、高精細化を実現しました。

従来機と比べ映像表現力が豊かになり、企業PRや情報提供等さまざまな活用シーンにおいて、より高い効果を発揮できる製品仕様となっております。



新製品情報

■ 生活機器

【 保冷米びつ 】

お米をおいしく食べたいというニーズにお応えする「保冷米びつ」。

計量方法を1合のワンレバー引き出し方式から1合・2合のツーレバー引き出し方式とすることで、使い勝手を向上させて、2機種4アイテムをモデルチェンジいたしました。

保冷保存することにより、味の低下の原因である脂肪の酸化速度を抑えて、精米したてのおいしさを保ちます。



株主優待制度のご案内

株主優待制度の内容

当社のグループ会社で運営する長野リンデンプラザホテル(長野市南千歳町)の宿泊優待券(5,800円相当)を贈呈いたします。

発行基準

宿泊優待券は、毎年3月20日現在、所有株式数1,000株以上の株主様に対し、次のとおり発行いたします。

ご所有株数	ご優待券
1,000株 ~ 1,999株	2枚
2,000株 ~ 3,999株	3枚
4,000株 ~ 9,999株	4枚
10,000株以上	6枚



長野リンデンプラザホテル

発行日

定時株主総会后、決議通知に同封いたします。

有効期限

発行年の翌年6月30日まで。



本資料に関するお問い合わせ

エムケー精工株式会社

管理本部

TEL : 026-272-0601

E-mail : soumu@mkseiko.co.jp